

令和２年度「福間中ブロック三校学校経営要綱」

＜共育目標＞

福津を愛し、健やかで、

未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成

—学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と子どもの社会力の育成を
めざす発展期コミュニティ・スクールの創造—

＜重点目標＞

—主体的に学び合い、対話的に自分の考えや思いを表現する子どもの育成—

令和２年度 研究主題

「主体的に学び合い、自分の考えや思いを表現する子どもの育成」

～「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」と

「ＣＳ行事・ふるさと学習を中心としたカリキュラム」の工夫を通して～

福間中ブロック

福津市立福間中・福間小・福間南小学校

氏 名	
-----	--

令和2年度「福間中ブロック三校」経営要綱

福津市立福間中学校・福間小学校・福間南小学校

1 福間中ブロック三校の経営理念

(1) 公教育としての基盤に立つ

- 日本国憲法及び教育基本法をはじめとする関係諸法規、並びに教育課程の基準である学習指導要領に則した教育に努めるとともに、福岡県教育施策、福岡教育事務所重点課題及び福津市学校教育ドリームプランに基づき、児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指す教育を行う。

(2) 現代社会の要請に応える

- 変化の激しい現代社会において、国が予想する2030年の社会で活躍できる人材の育成を目指し、新学習指導要領が示す方針を踏まえ、新しい時代に必要となる資質・能力を身につけた人間性豊かな逞しい児童生徒の育成を重視する。

(3) 義務教育9年間を見通し、社会に開かれた教育課程をマネジメントする

- これまで培われてきた文化と伝統を継承し、発展期コミュニティ・スクールとして、福間中学校区小・中学校が一体となり、9年間を見通した特色ある学校づくりをすすめる。さらに福間中ブロック三校合同学校運営協議会や福間中ブロック小中連携推進協議会・各部会などの定期的な開催を通して、育成を目指す資質・能力や社会に開かれた教育課程の編成方針を共有し、必要に応じて改善するなどして、保護者や地域の期待に応える教育を行う。

2 福間中ブロック三校の共育目標

共育目標：福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成

一学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と

子どもの社会力の育成をめざす発展期コミュニティ・スクールの創造—

3 具体目標

(1) 福間中ブロックの目指す子ども像

徳	知	体	絆
正しい言葉を届ける 子ども【心力】	自分の言葉で表す 子ども【学力】	負けないからだをつ くる子ども【体力】	地域に思いを届ける 子ども【郷土愛】

(2) 福間中ブロックの目指すコミュニティ・スクール像・教師像

＜コミュニティ・スクール像＞未来につながるコミュニティ・スクール

- 子どもの社会力育成と地域の活性化を図る発展期コミュニティ・スクール
- 持続可能な社会づくりの担い手を育むESD教育を推進するコミュニティ・スクール
- 学校の実態に応じた特色ある地域学校協働活動を推進するコミュニティ・スクール
- 小中9年間の接続を重視したコミュニティ・スクール

＜教師像＞

- 教育への使命感と情熱を持ち、常に学び続け、子どもの長所や可能性を伸ばす教師
- 児童生徒理解の視点に立った指導をし、子ども・保護者・地域住民への配慮ができる教師
- 心身ともに健康で、学校経営参画意識を持ち、組織的・共働的・創造的に努める教師
- 教育公務員としての自覚と責任を再認識し、不祥事防止に努める教師

(3) 目指す家庭像、地域像

＜家庭像＞

- 学校と共働しながら、子どもに基本的生活習慣を身に付けさせる家庭
- 子どもとの対話を心がけ、温かいかわりの中で子ども自身に考えさせる家庭
- コミュニティ・スクールの理解し、学校・地域と共働して具体的共育を推進する家庭

<地域像>

- 学校における取組の方向性や課題に関心を持ち、共働して共育活動を推進する地域
- 「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」、winwinの関係づくりを推進する地域
- 学校に対して、厳しくもあり優しい地域

4 福間中ブロックの教育課題と経営課題

※本年度は、大規模流行疾病（新型コロナウイルス感染症）の感染予防に努めるとともに、拡大防止のため保護者、地域、関係機関と連携して対策を講じる。また、子どもの学習や生活については、子どもの心の安定を考慮した教育課程等の見直しを行い、休業中の学習・生活支援を含めた効率的かつ効果的な教育活動の工夫を行う。さらに、情報の収集に努め、報告・連絡体制の徹底を図る。

(1) 教育課題

- 9年間を見通した確かな学力の向上及び子どもの実態に合わせた質の高い授業への改善に課題
- 不登校・別室登校の子ども・支援を要する子ども等の増加傾向による今後の対応に課題
- 学力は全国や県、市、の平均を超えているが低位層の固定化に課題

(2) 経営課題

- 発展期としてのコミュニティ・スクールの進展及び更なる小中連携推進の方向性に課題
- 子どもの人数増加に伴う組織運営体制等に課題
- 三校共通学校評価項目の見直しとPDCAのサイクルの定着を図ることに課題

5 課題解決の方略

(1) 福間中ブロック三校「共働」の教育活動の推進

キーワード：「つなぐ」「そろえる」「つどう」

「つなぐ」

- 9年間の見通した特色あるカリキュラムの編成・実施
- ふるさと学習カリキュラム・CS行事カリキュラム
- 児童生徒指導（不登校含む）及び特別支援教育の視点からの連携
- 早期段階からの系統的な外国語教育 など

「そろえる」

- 学年段階に関係なく同一步調で指導することの共通理解・共通指導 など
（あいさつ運動、生活のきまり、授業のユニバーサルデザイン化、学習のきまり）

「つどう」

- 相互理解を深めるための教職員交流
- 小中・小中の連携交流
- 子どもの地域行事への積極的参加
- 保護者・地域住民の学校教育への参画 など

(2) 今後5年程度で重点化していく課題の年次計画

31年度～令和2年度

（小中連携CSへの移行期）

- ①9年間を見通した学習指導スタイル等の作成とそれに基づく指導の重点化
- ②小中連携CS運営の研究と実践

令和3年度～5年度

（小中連携CSを基にしたブロック経営）

- ①9年間を見通したカリキュラムの構築とカリキュラムマネジメント
- ②小中連携CS運営の実践と充実

<今後2年程度の成果指標>

- 全国学調標準化得点（市統一テスト）：105P以上
- 福間中ブロック共通評価項目：「健康な体をつくる」「強い体をつくる」「自信を持つ」「関わりを広げる」「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「貢献する」
+評価：90%以上

(3) 具体的な方策（各層リーダーによる主体的な組織マネジメント力向上のための組織機能の明確化と運営の充実）

<方策1>教育活動と学習活動の基盤づくり

- 小中9年間の接続を重視したコミュニティ・スクール
- ・9年間を貫く学習規律等と基本的な生活習慣育成への徹底指導
- ・「福B三校」「地域学校協働活動」の連携・共働が図られた「鍛ほめ福岡メソッド」の展開

<方策2>授業づくり

- 福津市学力向上スタンダードを基盤とした日常の授業づくりと言語活動の充実を図る授業研究の推進
- ・9年間を見通した学習指導スタイルの作成とそれに基づく指導の重点化
- ・「各教科の見方・考え方」を働かせた言語活動が工夫された授業
- ・UDLやアダプティブラーニングの視点を取り入れた授業や学習環境づくり
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

<方策3>教育課程

- 小中連携ふるさと学習カリキュラム等の構築とカリキュラム・マネジメントの推進
- ・小中地域学習、各校地域学習、各校ふるさと学習の整理
- ・地域学校協働活動の見直しと整理

<方策4>小小・小中の子ども・教師間交流

- 人間関係を豊かに育む小小・小中間交流の推進
- ・特別支援教育、人権同和教育、特定教科等における教師間交流の充実
- ・新たな小小・小中の子ども間交流への挑戦

<方策5>組織・研修

- 福間中ブロック小中連携推進委員会を核とした福間中ブロックの経営の充実
- ・三校校長部会のもと、企画運営に係る副校長教頭部会・主幹教諭部会や四部会（まなび部会、こころ部会、からだ部会、家庭地域連携部会）の充実と機能化

<方策6>学校評価

- 福間中ブロックの重点目標に照らした評価指標（成果指標・取組）による経営の評価改善
- ・重点項目の設定と評価項目内容の再検討

<方策7>学校・家庭・地域との連携強化

- 家庭・地域（郷づくり・郷育カレッジ等）との共働的連携強化（必要から必然へ）
- ・三校合同学校運営協議会と三校PTA連絡会の推進、地域による表彰制度の確立
- ・学校・家庭・地域との連携のための三校地域コーディネーター連絡会の推進
- ・子どもの地域貢献活動（ボランティア）への参加促進
- ・連携構想の整理（共働・連携、協力・支援、地域・貢献）

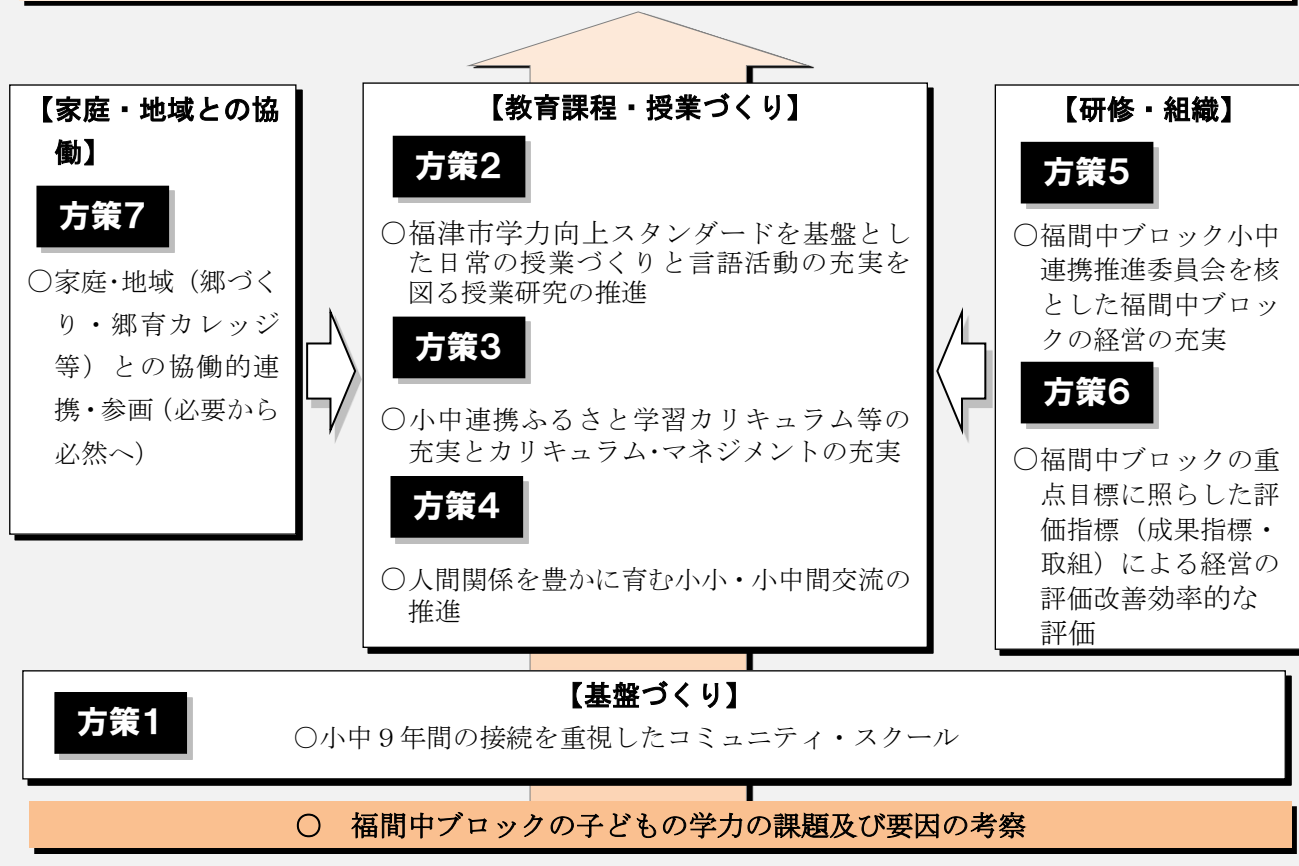
6 重点目標と7つの重点方策

【共育目標】 福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成

【重点目標】 主体的に学び合い、対話的に自分の考えや思いを表現する子どもの育成

○学力：全国学調（市統一テ） 105P ○「福間中ブロック共通評価7項目」の+評価：90%

目指す子ども像 ○「正しい言葉を届ける子」徳 ○「自分の言葉で表す子」知
○「負けない体をつくる子」体 ○「地域に思いを届ける子」絆

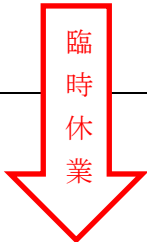
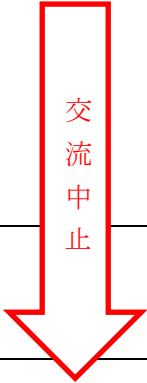


☆ 令和2年度 小中連携CSに向けた福間中ブロック経営の充実

方策2＜授業研究＞、方策3＜ふるさと学習＞、方策4＜小小・小中交流＞

方策7＜家庭・地域連携＞の4点を重点とした三校ブロック経営で小中連携CSを推進する。

7 令和2年度（2020年度）年間計画

月	3校合同研修	教育活動・連携	交流・行事	学校運営協議会等
4				
5				臨時校長部会①
6	各校で三校小中連携推進構想と授業構想等及びCS発表会について提案			臨時校長部会② 臨時校長部会③ 小中連携推進委員会① 各校学校運営協議会① 各部部会①
7		中体連代替大会 7/23～26		小中連携推進委員会② 3校PTA連絡会①
8	福津市人権同和教育研修会 8/4	終業式小 8/4 中 8/7 海岸清掃 8/10? 始業式 8/19		小中連携推進委員会③ 各部部会② 3校合同学校運営協議会 8/27
9	授業研究会 (各校 9/F～11/M) 	中学校体育祭 9/19		小中連携推進委員会④ 各部部会③
10				小中連携推進委員会⑤ 各部部会④ 3校PTA連絡会②
11		福間中ブロック CS発表会 11/10 コロナによる延期なし 福中B人権同和教育実践交流会 11/27		小中連携推進委員会⑥
12		トークフォークダンス 12/12	弁当の日 12/8	
1	宗像地区人権同和教育実践交流会 1/14	まわし読み新聞 1/23 コミュニティフェスタ 1/30	3校あいさつ運動 1/12, 13	小中連携推進委員会⑦ 各部部会⑤
2	CS報告会 2/15		入学説明会 2/2	
3				3校PTA連絡会③ 小中連絡会

8 令和2年度CS実践交流会の方向性について

(1) ドリームプラン施策1＜目的＞より

中学校区の特色を活かした実践交流会をおこない、自校の特色ある取り組みや「社会に開かれた教育課程」に基づく授業、「ふるさと福津」の学習、小学校外国語学習の授業を教職員や保護者・地域住民へ公開する。

(2) 現状より

事務所研、センター研、小中教科等研の授業研が中止となる中で、11月時点では状況がどう変化しているか不明だが、危機管理を考え、発信する内容を最小限にし、規模を縮小して、11月10日（火）に開催する予定である。

(3) CS実践交流会の内容について

- ① 各学校で公開授業を行う。
 - ・各学年、ふるさと学習1クラス、教科1クラス（小学校計12、中学校計6）
- ② 授業公開及び自校の運営に関わる先生以外は、他の2校の授業を参観する。
- ③ 授業公開のみ行い、全体会・分散会は実施しない。
- ④ 研究紀要は作成するが、指導案などは掲載せず、ふるさと学習、CS行事（各部会の取組含む）などを実践記録形式で掲載する。指導案は当日各学校にて別冊で配付する。
- ⑤ 参観者について
 - ・学校運営協議会
 - ・PTA本部役員
 - ・福津市教育委員会
 - ・福間中ブロック以外の参観者は各校3名など人数制限する。